

2023年11月7日

Hondaの英国現地法人であるホンダモーターヨーロッパ・リミテッド（本社：パークシャー州ブラックネル 社長：奥田 克久）は、現地時間2023年11月7日（火）10：00に以下を発表しましたので、その内容をご案内いたします。

EICMA（ミラノショー）2023 出展概要

Honda は、イタリア・ミラノで開催される EICMA 2023（ミラノショー、プレスデー：11月7～8日、一般公開：11月9～12日）に出展するヨーロッパ向け2024年モデルの二輪車ラインアップを発表しました。

- ・新型 CB1000 HORNET が、ネイキッドタイプのフラッグシップモデルとして、2024年に欧州で発売予定
- ・CBR600RR が、エンジン、スタイリング、エレクトロニクスを一新し、6年ぶりに欧州に登場
- ・500シリーズにCB500 HORNET とNX500の2車種が加わり、新型 CBR500R も登場
- ・CB650R と CBR650R に、世界初の技術「Honda E-Clutch」を採用
- ・CBR1000RR-R FIREBLADE とその SP バージョンは、フレーム、ボディーワーク、エンジン、ギアボックスの各部をアップグレードし、中速域のパフォーマンスを向上
- ・電動二輪車のコンセプトモデル・SC e: Concept を欧州で初公開
- ・2024年モデルは全車種 EURO5+規制に適合



CB1000 HORNET



NX500



CB650R E-Clutch 搭載車



CBR650R E-Clutch 搭載車

■CB1000 HORNET

CB1000 HORNET は、2017 年型 CBR1000RR に搭載された直列 4 気筒エンジンを最適化し、110kW を超える出力と、100Nm を超えるトルクを発揮するエンジンを搭載しています。

車体には、新開発のスチール製ツイン・スパー・フレームを採用し、フロントには圧縮・伸側ともに調整可能な、ショーワ（日立 Astemo 株式会社）製 41mm セパレート・ファンクション・フォーク・ビッグ・ピストン（SFF-BP）倒立サスペンションと、ショーワ製ユニットプロリンク・リアショックが組み合わされています。

スタイリングでは、超小型デュアル LED プロジェクターヘッドライトを採用し、HORNET の特徴である燃料タンクは、フロントは幅が広く、リアは細く絞り込まれ、また小さなシートにより特有の細さを表現しています。新しいフレームもさりげなくブラックカラーで統一されデザインの特徴としています。

スロットル・バイ・ワイヤー（TBW）による電子制御に加え、ライダーは 5 インチ TFT カラーディスプレイに表示される 3 つのライディング・モードを選択できます。

■CB500 HORNET

CB500 HORNET は、HORNET シリーズからインスパイアされたアグレッシブなスタイリングと、HORNET の名にふさわしい象徴的なエアロダイナミクス性能を備えています。

CB500 HORNET のカウリングには、燃料タンク上部へ空気を流すヘッドライト・サイド・ダクトが組み込まれ、リニアなステアリングフィールとハンドリングの俊敏性に貢献しています。また視認性を向上させるため、よりワイドに光を照射する LED を採用しています。

471cc エンジンのパワーとトルクは、最大出力 35kW、最大トルク 43Nm を実現します。またフューエル・インジェクションのセッティングを変更することで、低回転域からの加速フィールを向上させ、Honda セレクタブル・トルク・コントロール（HSTC）を採用することで安心感を高めています。

車体には、41mm 径のショーワ製 SFF-BP 倒立フォーク、ショーワ製リアショック、4 ピストンキャリア付きフロントデュアルディスクを採用。また、新しい 5 インチ TFT スクリーンは、車両とスマートフォンを連携することで、ハンドルスイッチ及び音声入力により音楽再生や通話などの操作を可能とする Honda RoadSync（ホンダ・ロードシンク）に対応しています。

■CBR600RR

CBR600RR は、前モデルから大幅に改良された、最高出力 89kW/14,250rpm、最大トルク 63Nm/11,500rpm のエンジンを搭載しています。

アルミ製スイングアーム付きツインスパー・アルミフレーム、41mm 径のショーワ製 SFF-BP 倒立フォーク、ショーワ製ユニットプロリンク・リアショック、ウイングレットを装備したカウリングにより、敏捷な旋回性と優れた安定感を両立したハンドリングを実現します。

CBR600RR は、CBR1000RR-R FIREBLADE 譲りの 6 軸慣性計測ユニット（IMU）を採用し、TBW 制御、5 つのライディング・モード、コーナリング ABS、9 レベルの HSTC、ワイリー・コントロール、リア・リフト・コントロール、エマージェンシー・ストップ・シグナルを装備。電子制御ステアリングダンパー、アシスト/スリッパークラッチ、クイックシフターも標準装備しています。

■NX500

ニュー・クロスオーバーの NX500 は、ワインディングロードからグラベルトレイル、長距離アドベンチャーまで、多様なシーンで楽しめるように設計されています。

従来の CB500X をベースに、新たなスタイリングとさまざまな仕様・性能のアップグレードを採用しています。

1.5kg 軽量化した新しい 5 スポークアルミキャストホイールの採用で、合計 3kg 減の 196kg になった車両重量に加え、41mm 径のショーワ製 SFF-BP 倒立フォークのスプリングレートとダンピングの見直しで、ハンドリングダイナミクスとフィーリングが向上しています。また新しいフューエル・インジェクションの設定により鋭い加速を実現しています。

さらに、5 インチ TFT スクリーン、Honda RoadSync、HSTC を採用。スタイリングは、新型ヘッドライトを中心に一新され、フロントからリアまで新しい樹脂材を採用し、コンパクトなアドベンチャースタイルの使い勝手と堂々としたシルエット、ソリッドなフォルムをミックスしています。

■CBR500R

CBR500R のスタイリングは、CBR1000RR-R FIREBLADE にインスパイアされ、ヘッドライトとテールランプを一新しています。またボディーワークもウイングレット搭載によってフロントエンドのフィーリングを高めています。

新しいフューエル・インジェクションのセッティングにより、低回転域の加速を向上させています。また 5 インチのフルカラーTFT スクリーンは、Honda RoadSync のインターフェースとしても機能します。

■CB650R/CBR650R。

ネオスポーツ・カフェの CB650R の外観は、しなやかで、よりダイナミックで、よりキャラクターが強く進化しました。フロントのシャープなアングルの新型 LED ヘッドライトは、ラジエーターシュラウドを通して、リアのテールランプを組み込んだシャープなリアカウリングへと流れます。

CBR650R は、デュアル LED ヘッドライトのデザインを変更し、上下カウリングを一新。再設計されたテールユニットとともに、スリムながら筋肉質なたたずまいを表現。CBR650R のピュア・スポーツさをアピールしています。

CB650R/CBR650R とともに、Honda RoadSync の接続を可能にした、5 インチフルカラー TFT スクリーンを採用しています。

■ Honda E-Clutch

CB650R と CBR650R には、Honda が開発した世界初の二輪車用有段式マニュアルトランスミッションのクラッチコントロールを自動制御する Honda E-Clutch を採用しました。

Honda E-Clutch は、ライダーのクラッチレバー操作なしでアップ・ダウンシフトが可能。ライダーは、シフトペダルを操作するだけで、まるでクイックシフターのように素早く、確実にギアシフトすることができます。また、ハーフクラッチ、燃料噴射カット、イグニッション・コントロールを調和させた組み合わせで制御するため、シフトショックを排除してスムーズな走りを実現します。

発進時や停止時にもクラッチ操作は不要です。Honda E-Clutch は、エンジン始動と同時に作動し、発進・停止をスムーズにこなし、またライダーが望めば、クラッチレバーを通常通り操作することも可能です。

■ CBR1000RR-R FIREBLADE/FIREBLADE SP

2024 年モデルの CBR1000RR FIREBLADE とその SP バージョンは、エンジンとギアボックスの改良により、中速域の性能を大幅に向上させ、スロットルレスポンスを改善することで、さらなる進化を遂げました。

CBR1000RR-R FIREBLADE SP の 113Nm のトルクと 160kW の出力は、HRC の開発力とノウハウにより、トップエンドのパワーと同時にコーナー出口での加速を生み出すために、より低いギア比とプライマリドライブが大幅に変更されました。さらに新しいウイングレットを備えたミドルカウリングのデザイン、軽量でしなやかなフレームを採用しました。

2 モーターのスロットル・バイ・ワイヤー (TBW) の採用により、ハーフ・スロットル制御が向上し、エンジンプレーキの増幅も可能になりました。クランクケース、クランクシャフト、コンロッドの軽量化、バルブタイミングの変更、圧縮比の向上により、CBR1000RR-R FIREBLADE SP は、すべての燃焼サイクルにおいてより高いパフォーマンスを引き出します。また標準装備の AKRAPOVIĆ (アクラポヴィッチ) 製マフラーにも変更を加え、排気音量を 5dB 低減しました。

またオーリンズ製第 3 世代の新型スマートエレクトロニック 43mm S-EC3.0 (SV) NPX USD フォークを採用しています。インストルメントパネルを介して、ライダーが自身の車両をセットアップするために開発された「デジタル・スプリング・プリロード・ガイド」も特長です。新しいブレンボ製スタイルマ R4 ピストンラジアルマウントブレーキキャリパーは、一貫して高いブレーキ性能を発揮します。

■CRF1100L Africa Twin/Africa Twin Adventure Sports

CRF1100L Africa Twin/Africa Twin Adventure Sports は、両モデルともに圧縮比、バルブタイミング、吸気ポート、ECU セッティングの変更により、最大トルクが 7%向上（従来よりも 750rpm 低い回転域で発生）。デュアル・クラッチ・トランスミッション（DCT）は、新しいエンジン性能に合わせて、ダウンシフトが早まり、コーナリング検出性能が向上、さらには発進および 1-2 速間のシフトがより自然になるなどの改良が施されています。

さらに、チューブレスタイヤの採用や、大型で 5 段階の調整が可能なスクリーンが追加され、実用性も向上しています。

CRF1100L Africa Twin には、6.5 インチタッチスクリーンディスプレイを介してリアスプリングプリロードを変更できるほか、あらゆるライディングコンディションで最適な減衰力を提供するショーワ製電子制御式ライドアジャストメント（Showa EERA™）を初めてオプション設定しました。

CRF1100L Africa Twin Adventure Sports のオンロード走行性能は、新しい 19 インチフロントホイールとワイドなフロントタイヤによって向上。また広くなったフロントカウリングと大型スクリーンでライダーへの走行風などの影響をより効率的に軽減するだけでなく、シートにより厚いパッド採用することで、より高い快適性を実現しました。

■SC e: Concept

SC e: Concept は、2023 年に登場した電動二輪車「EM1 e:」に続く、欧州向け電動二輪車の第 2 弾のコンセプトモデルです。モダンで特徴的なデザインライン、大型フラットフロア、ロングワイドシートが特徴です。交換式バッテリー「Honda Mobile Power Pack e:」を 2 個搭載することで、より長い航続距離を実現しています。

なお EICMA2023 に出展した下記モデルは、日本での販売を予定しています。

- ・CB1000 HORNET
- ・CBR600RR
- ・NX500（日本では NX400 として販売予定）
- ・CBR500R（日本では CBR400R として販売予定）
- ・CB650R、CBR650R
- ・CBR1000RR-R FIREBLADE、CBR1000RR-R FIREBLADE SP
- ・CRF1100L Africa Twin、CRF1100L Africa Twin Adventure Sports